

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月25日
札幌市立豊平小学校

1 本年度の重点目標

「自立する力と共生する心の育成」
-笑顔があふれる あたたかい学校の創造-

2 本年度の経営方針

○学ぶ力の育成 ○豊かな心の育成 ○健やかな体の育成 ○信頼される学校の創造
○特別な配慮を必要とする子どもへの教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(A:達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成していない D:達成できなかった)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	課題探求的な学習の充実に向け、子ども自らが課題を見出し、課題を把握・設定することができたか。	A	課題解決・問題解決の学習を取り入れた部内研や、日常授業を見合う『オープンタイム』を教員全員が実施し、一定の成果があった。新年度は、「自己決定・自己選択」を取り入れた「単元自由進度学習」を実践し、子ども主体の「学習」に授業改善を図っていく。	A	A
	一人一人のよさや伸びを認め、自信をもたせる指導と評価の一層の充実を図ることができたか。	B	課題探求的な学習の充実と、指導と評価の一体化に重点を置いてきた評価が表れてきた。さらに、子どもたちが「楽しみ」ながら、学びに向かっていくための工夫・環境づくりを実践していく。	B	A
学校関係者評価委員による意見		今後も、教職員が授業実践や授業改善に取り組み、子どもたちが主体的に楽しみながら学ぶための環境を整えていく。			
豊かな心の育成	相手意識を大切にした言語環境・日常生活の整備等、当たり前のことを当たり前に行う子を育てることができたか。	B	保護者からは概ね肯定的な評価をいただいたが、挨拶については、一人一人が自分のめあてをもって実践できるよう、教職員の共通理解のもと、工夫・改善を図っていきたい。	B	B
	相手意識をベースに、思いやりの心・規範意識・人間関係を築く力や社会参画への意識、自己実現を図ろうとする態度等の自主性と社会性を育む特別活動を充実させることができたか。	B	児童活動の一環として、『ふれあい活動』を実施したが、異学年交流を通して自主性・社会性をさらに高めていけるよう、内容の見直し、改善を図っていく。次年度は、「ネットモラル週間」を年2回設定し、児童の相手意識を高めていくとともに、家庭と連携しながら進めていけるようにする。	B	B
学校関係者評価委員による意見		相手意識をもった行動ができるよう、家庭や地域と連携しながら、共通意識をもって子どもたちの豊かな心を育成していく。			

(様式2)

健やかな体の育成	子どもの体力向上につながる、体を動かす楽しさや喜びを味わうことのできる体育の授業を推進することができたか。	A	今年度も2学期に、跳び箱週間・マット週間を行い、子どもの運動量を増やし、運動への意欲を高めることができた。次年度は、体育館やグラウンド等での活動場所を工夫・改善し、さらに運動する環境を充実させていきたい。	B	B
	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の保持増進や、自他の生命を大切にすること態度等を育むことができたか。	A	ハンカチ・ティッシュの携帯については、委員会活動と連携した取組が子どもたちの動機づけとなり、成果が表れている。次年度も、保健だより等を活用し、子どもの実態に合わせた学級での指導を通し、健康や命について、子どもたちの意識を高めていく。	A	B
学校関係者評価委員による意見		今後も、運動環境を充実させること運動習慣を身に付けさせるとともに、健康や命についての意識を高めていく。			
信頼される学校の創造	「全教職員が全校児童の担任である」という協働体制と指導力・資質・能力の向上させることができたか。	A	児童について、職員集会の場で情報の共有の場や、児童理解を深めるための研修の場を設定することで、指導の工夫・改善を行った。また、チーム豊平小として子どもの成長のために同じ方向性でかかわっていけるよう、共通理解を深めた。今年度から取り入れた「情報共有システム」を活用しながら、今後も、一人一人の子どもたちに寄り添った教育ができるよう、努めていきたい。	B	A
	「楽しい」を十分意識した教育活動を実施することができたか。	B	子ども一人一人のよさに目を向け、授業の中で子どもの考えを価値付け、学習評価の充実を図ってきた。次年度も、きめ細かな見取りと、子どもの思いに寄り添った教育活動を継続していく。	B	B
学校関係者評価委員による意見		一人一人のよさを認め合う場を設定し、子どもの思いに寄り添ったかわりを大切にしていける。また、「全教職員が全校児童の担任である」という意識を再確認し、今後も教育活動に当たっていく。			
特別な配慮を必要とする子どもへの教育	子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を行うことができたか。	A	保護者との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行ってきた。今後も多様な教育的ニーズに対しての支援の工夫・改善を図っていく。	A	A
	新たな不登校を生まない未然防止の取組と組織的・計画的な不登校支援を行うことができたか。	B	児童の情報を職員が共通理解し、スクールカウンセラーやSSW等の関係機関との連携を図り、子どもの居場所づくりや、保護者への支援を行い、未然防止につながった。次年度も『相談支援パートナー』を活用しながら、保護者との連携を深めていく。	B	A
学校関係者評価委員による意見		保護者、関係機関と連携を図りながら、子どもたちのニーズに合わせた組織的に支援していく。今後も、相談支援パートナーを活用し、不登校の未然防止に当たる。			